

匠の街春日部かわら版

発行 備コーワ
編集室 工房えびはら

「ぶらり散歩」-37- 足袋蔵と桜の街行田

行田といえは映画「のぼうの城」の忍城が有名です。現在でも忍城の城下町行田の裏通りを歩くと、土蔵、石蔵、モルタル蔵などの多彩な足袋蔵(足袋の倉庫)が姿を現します。

行田足袋は、今から約300年ほど前の武士の妻たちの内職であったとされています。その後、名産品として広く知られ渡り、最盛期には全国の約8割の足袋を生産するまでに発展しています。行田足袋については、「貞享年間豊屋某なる者専門に営業を創めた」と(起)の伝承があり、享保年間(1706-1735)頃の「行田町絵図」に3軒の足袋屋が記されているとのことから、18世紀前半には生産が始まっていたと推定されます。

享保年間に忍藩主が藩士の婦女子に足袋(しほり)を奨励したとの記録がある(起)の「後足袋」については、盛んになり、明和2年(1765)頃田二成の水攻めに耐えた忍城の城下町であった行田は、近世前半に城と城下町の整備が行われ、間口の広さに応じて各家に税が課せられたので、間口が狭く奥行きが長い短冊型の敷地が通り沿いに並び町割りりが形成されました。近世の行田は、鴻巣・吹上から館林へと続く館林道・日光脇往還の宿場でもあったので、馬の世話を行う裏庭とそこに通じる路地が家々の間に設けられていました。近代になって馬の世話の必要がなくなり、空いた裏庭に足袋工場と足袋蔵が建てられていきます。こうして短冊形の敷地に



5)の「東海木曾街道中懐玉図鑑」に「忍のしほり足袋名産なり」と記されるまで、「広く知られるよう」なっています。足袋には株仲間がなく、取引が比較的自由にされたことから、足袋(しほり)は益々盛んになり、天保年間(1830-1844)頃には67軒もの足袋屋が、行田のまちに軒を連ねていました。

近代に入ると足袋は大衆化して需要が拡大し、行田の足袋商人は東北地方や北海道に直接赴いてさらに販路を広げると共に、重需用の足袋の生産にも携わり、他の産地を圧倒していきます。足袋(しほり)には作業工程ごとに専用の特殊マシンが導入され、日露戦争の好景気を契機に足袋工場建設ブームが起り、敷地の裏庭に工場が建てられていきます。生産量が増えるので、出荷が本格化する秋口まで製品を保管して置く倉庫として足袋蔵が必要になり、既存の土蔵の転用と共に、敷地の一番奥に足袋蔵が数多く建てられるようになります。

北風に備えて北西方向のみを塗り壁にしたり、北西方向の窓を極端に少なくしたりといった防火・防寒対策を施した店舗・住宅、接客用の中庭・工場、足袋蔵、火除けを願う足袋蔵が表から列状に並び、足袋商店特有の建物配置が形作られたようです。



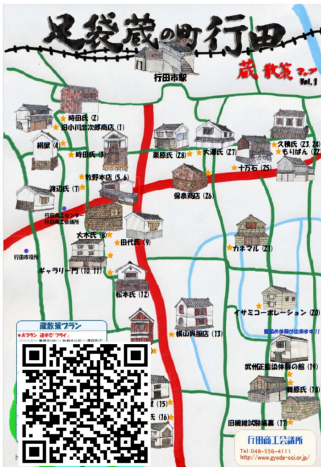
足袋蔵は、江戸時代後期には建てられ始めていたようで、弘化3年(1846)の大火の際に足袋蔵が延焼を食い止めています。足袋蔵は商品や原料を扱いきやすいよう壁面に多くの柱を立てて中央の柱を少なくし、床を高くして床下の通気性を高めるなど、内部の造りに特徴があります。足袋蔵の建設が本格化する明治300年頃までは、純和風の土蔵が建てられていましたが、明治時代の末頃から土蔵の小屋組みに洋風建築技術が導入され、土蔵だけでなく石蔵も建てられるようになり、大正時代に入ると大型の足袋蔵も建てられ、大正時代末には鉄骨煉瓦造の足袋蔵が現れました。昭和

に入ると鉄筋コンクリート造、モルタル造、木造の足袋蔵も現われ、大小様々な他種多様の足袋蔵が昭和戦前期には建てられています。戦後は木材不足から石蔵が主流となり、昭和30年代前半まで足袋蔵の建設は続けられました。

行田の足袋蔵が多種多様であるのは、1600年(1700年)以上に渡って新しい建築様式を取り入れながら足袋蔵が建てられ続けたからのようです。その背景には、生産量が増加しても企業統合等による大企業化には進まず、のれん分けして次第に足袋商店と足袋蔵が増加しています。ピーク時には200社以上の足袋商店が共存して一大産地を形成しています。ここに「行田の足袋産業ならではの特色」があります。

2004年に縁あって行田商工会議所との「コラボ」で足袋蔵の町行田蔵散策マップを作成しました。イラストや絵手紙は当時指導していたメンバーの作品です。ORNDで読めまわすのぞいてください。

行田市内にはたくさんある川が流れ、土手には桜がたくさん。町全体が桜で賑わいます。本紙がお手元に届く頃から桜がほころび始めるでしょう。(元 共栄大学教授 海老原武)



「歴史を歩く」 第一五〇話(最終回) 尖塔で焼失の首里城

首里城は琉球王朝(一四二九-一八七九)の王城で、四五〇年にわたり琉球の政治・経済・文化の中心でした。琉球は、日本や中国朝鮮そして東南アジア諸国との交易により海洋国家として大きく発展しました。江戸時代初め(一六〇九年)に薩摩藩の武力侵攻によってその支配下に置かれましたが、その後王朝は存続し独自の文化が形成されました。明治維新の余波を受けた琉球王朝は最後の王・尚泰の代で幕を閉じ、明治十二年(一八七九)に沖縄県になりました。

首里城は、惜しいことに、令和元年(二〇一九)十月の火災で正殿と北殿、南殿が全焼し、多くの貴重な工芸品が失われました。令和四年十一月に正殿の再建が始まり、令和八年秋の完成を目指して、現在工事が進められています。首里城の主な建物は昭和二〇年の沖縄戦でも焼失しましたが、戦後復興工事が行われ、平成四年(一九九二)に正殿が柱壁・瓦など朱色を基調として再建されました。



焼失前の首里城正殿と御庭(うな)

正殿に向かつて左手には北殿、右には南殿が配置され、北殿は中国様式で行政の施設として使われ、また中国からの使節の接待所に充てられていました。一方、南殿は内部が和風で薩摩藩の役人を接待する場所でした。正殿、北殿、南殿に囲まれた広場は御庭(ごな)と呼ばれ、横四四m、縦四〇mの煉瓦敷きの広場です。ここでは国王の代替わり毎に中国皇帝が琉球国王の地位を安堵する冊封(さくほう)式など国家の重要儀式が行われていました。

首里城は近辺の王家の墓地、玉陵(たまづら)などとともに、平成十一年(二〇〇〇)に「琉球王国のグスク(城)及び関連遺産群」として世界遺産に登録されました。また、平成十八年には、日本百名城(百番)に選定されています。

さて、「歴史を歩く」の連載は今回で百五十回となりました。平成二十四年(二〇一二)九月に始まり十二年半にわたって書き綴ってきましたが、齢八十歳を越えましたので、今回で終わりとさせていただきます。長い間のご愛読に心より感謝申し上げます。



【筆者紹介】内藤 敬雄
共栄大学名誉教授(元副学長、松東教育総合研究所理事、全国歴史研究会会長、都市銀行で国際金融に携わり、シンクタンクのエコノミストを経て、大学教授に転身。専門は国際経済・金融。中学以来「趣味は歴史」で、現在も歴史探訪とエッセイ執筆を続ける。

3月号 Vol.315
2025年3月20日(木)

発行所：(株) コーワ
発行者：広地 進
制作・編集：工房えびはら
発行日：毎月20日発行

読者の広場

朝日新聞と森永牛乳を皆様の笑顔のために届ける情報誌

ASA 春日部

〒344-0055
春日部市八木崎町1-19
☎0120-86-1637 FAX:048-761-0044
http://www.asa-kowa.com



コーワ春日部ミルクセンター

TEL:048-753-1800 FAX:048-761-3036



漢字ぐるぐるパズル◇リストの漢字を白マスに入れて、漢字しりとりを完成させてください。リストに残った四つの漢字でできる熟語が答えです。

正解者の方に抽選でプレゼント致します！
(希望商品を2つまで書いてください)

- ①朝日新聞 天声人語書き写しノート 3名様
- ②森永絹ごし(こ)豆腐(常温保存可) 10名様
- ③森永充実野菜(常温保存可) 3本 6名様
- ④森永まろやか黒酢(黒糖&りんご味) 3本 6名様

リスト
花金合視人線定売野
園屋音花金合視人線定売野
家会学高子新石地動文
現工骨子新石地動文
国証制帯度品
集生全電薄路

桜	前			側					
	期	預		剛		細	供		
	安			文			部		
員	内	入			生	芸		台	
			酒	見					
遊	楽	一	心						
			上		多	利	密		
物		活	外			外			

難易度 ★☆☆(初級)

春	一	番	地	下	室	温	情
緑	化	石	灰	水	彩	画	報
上	武	両	道	案	内	期	処
屋	文	白	日	夢	外	的	理
問	末	関	地	心	野	中	想
酒	度	主	亭	料	席	心	郷
本	年	学	高	価	物	人	土
日	月	年	生	人	際	国	愛

喜色満面

先月号の答えは『喜色満面』でした。

クイズ応募者41名様で、41名の方が正解でした。

☆☆☆「漢字ぐるぐるパズル」クイズ解答応募先☆☆☆

ハガキかメールで「答え」、「住所・氏名」をご記入の上、コメントを添えてご応募ください。
〒344-0055 春日部市八木崎町1-19 (株)コーワ「漢字ぐるぐるパズル」係 メール otayori@asa-kowa.com まで
ハガキは3月28日消印有効、メールは3月末日到着有効(当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます)



【イラスト:あやか】

デジタル時代に健在の紙の高校新聞

朝日新聞立川支局員 山浦 正敬

「デジタル時代になぜ紙なのか」。紙の学校新聞を発行する高校が今も各地で健在と聞き、高校生記者に理由を聞いてみたいと思っていました。その機会が最近、実現しました。

都立立川高校の生徒9人が昨年12月、立川支局に来てくれました。生徒会活動の一つ「新聞委員会」として、月刊新聞を出す1、2年生です。発行は通算970回を超える歴史を誇りました。同僚記者が同高を取材した縁です。

「昔から続くものには残る理由があるのだと感じた」と紙の新聞をとらえられた。末尾では、読者である高校の生徒に「読んでみてはどうだろうか」と呼びかけてくれました。

同号はほか、「論説」で気候変動と世界の分断を考へ、「一面連載」で高校のトイレ問題を指摘するなど硬軟織り交ぜた力作です。「高校生がなぜ、紙の新聞か」への答えは引き出せませんでしたが、後日に寄せられた決意を込めた感想に勇気づけられました。

「日々の話題に敏感に、健全な批判精神を忘れずに、記事を書いていくことで存在意義を果たしたい」

Cooking

チンゲンサイと豚肉の卵炒め

1人分355kcal 塩分3.3g ▷15分

- 材料(2人分)
- チンゲンサイ.....300g
 - 豚こま切れ肉.....120g
 - サラダ油.....大さじ1と1/2
 - 塩.....小さじ1/4
 - コショウ.....少々
 - ① 溶き卵.....3個分
 - 塩.....ひとつまみ
 - ② 鶏ガラスープのもと...小さじ1/2
 - 酒.....大さじ2
 - しょうゆ.....小さじ1
 - 塩.....小さじ1/3



【作り方】

- チンゲンサイは茎と葉に分け、葉は長さ3等分に切り、茎は幅1cmに切る。豚肉は塩とコショウを振る。
- フライパンにサラダ油大さじ1を強めの中火で熱し、混ぜ合わせた①を炒め、半熟状になったら取り出す。残りのサラダ油を中火で熱し、肉を炒める。色が変わったらチンゲンサイの茎を加えてしんなりするまで炒める。チンゲンサイの葉を加えて炒め、しんなりしたら混ぜ合わせた②を加えてさっと炒める。卵を戻し入れ、さっと炒める。

料理・市瀬悦子 撮影・木村拓

当店ご購入者様へ

便利なWEBサービスを開始しました! WEBからお休みのご連絡や各種お申込みを受付けるサービスを開始しました。24時間365日ご利用いただけます。

【PC/スマホの方】 <https://www.asa-kowa.com>
 ☆携帯の方はこちら
 【空メール: y@asa-kowa.com】

※件名、本文は必要ありません。
 ※受信制限をご利用の方は、「asa-kowa.com」からのメールを許可してください。



お便りコーナー

◆また今年も花粉症の季節となりましたね。私も40年以上花粉症と戦っていてフスリが手放せません。本当に毎年困っています。花粉症のみなさん4月下旬頃まで辛抱しましょう。
【大枝 H-iさん】

◆先日古い友人から突然の電話。「今大変な事に」施設に「車椅子」そして、何か伝えようとしていたが、言葉が出ない。私もどうしていいかわからず。最後は「体を大事にして」と終ってしまつた。その後家族に電話して、友人は、十年前から重い病気になつていた。私に今何が出来るか考えている。まず手紙を書こう。彼女の回復を祈るしかないが。
【大枝 Y.Nさん】

◆人間界では、米騒動、物価高で盛り上がりつつありますが、自然界は粛々と春が近づいています。梅の花も咲き始め「ほっこり」した気持ちになります。
【備後東 J.Tさん】

◆初任で担任した教諭の子から手紙をもらった。彼女は長年小学校の読み聞かせボランティアを行って来て、今度平和に関する授業の一環として、6年生に向けてグループで発表をするので、ぜひ来て欲しいというものだった。行かせていただき、内容はもちろんです。素晴らしいものだったが、ときばきと活動する姿に大きな成長を感じることができ、心からうれしく貴重な時間をいただいた。ありがとうございました。
【谷原 K-iさん】

◆日本列島長いですが。私達の住む街はからつ風は強く寒いです。雪かきの心配はないです。二コースで見る豪雪地帯は気の毒です。先日50数年乗った運転免許証を返納しました。ちよつとさみしいですが、春よ来い! 早く来い!
【粕壁 H.Tさん】

◆随分前に「夢ノート」という言葉を知り自分のやりたい事を列挙した。バラを育てる仕事関連の資格を取る、趣味を続ける等々。残念ながら途中になったり止めたものもあるが、忘れていたのが俳句。昨年から始め毎回苦しんでいるが、自分が楽しむものと続けていこうと思つている。
チャレンジに生きる夢のせ春の道
【大沼 N.Tさん】

◆昔奥会津に住んでいた頃、軒先まで積もる雪の中で生活してました。不謹慎であることは承知のうえですが、今冬の大雪の「コーラス」を見てはどか懐かしむ気持ちを持てません。そして富山市で初めて雪の生活を経験した妻はテレビに映る富山空港の画面を見ては、「一度と雪国では暮らしたくない」と苦笑いの表情を浮かべています。
【豊町 T.Tさん】

◆先日久しぶりに東京に出かけた際、外国人の方が多く驚かしました。大きなスーツケースをガラガラと引きながら観光を楽しんでいるようですが、「中身は何が入っているのだから...」と気になるようです(笑)。爆買いなのか、私物なのか、聞いてみたい!
【大沼 M.Nさん】

◆埼玉近郊は今冬雨や雪などほとんど降らないが、特に日本海側は大雪。同じ日本かと思つ気候の違いに驚かします。早く春よ来い!
【大沼 M.Oさん】

◆今月の答えの「喜色満面」とは喜びの表情が顔いっぱい表れている様子や、うれしさを顔中に浮かべることの意味するそうです。春は卒業や入学シーズンであり、桜の開花の時期でもあります。街中で顔いっぱい喜びやうれしさの方々を見られそうですね。
【増田新田 Y.Mさん】